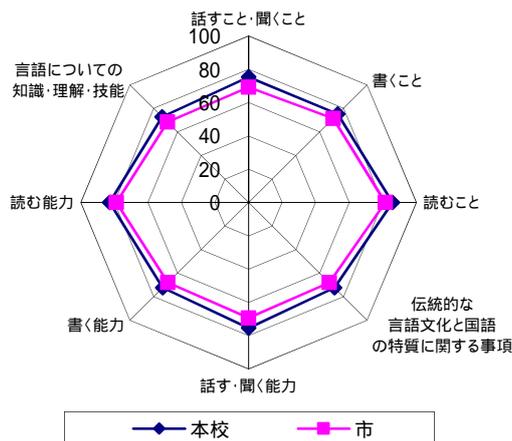


# 宇都宮市立陽東小学校 第6学年【国語】領域別／観点別正答率

## 本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	話すこと・聞くこと	75.4	69.3	73.4
	書くこと	75.2	71.3	74.6
	読むこと	85.7	81.5	81.5
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	72.4	68.1	71.6
観点別	話す・聞く能力	75.4	69.3	73.4
	書く能力	72.4	68.1	71.7
	読む能力	82.7	78.8	79.0
	言語についての知識・理解・技能	72.8	68.4	72.0

参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



## 指導の工夫と改善

領域	本年度の状況	今後の指導の重点
話すこと・聞くこと	市の正答率を6.1ポイント上回っている。特に、話し手の意図を考えながら、話し合いの内容をまとめる記述式の問題は、市の平均を9.1ポイント上回っている。	・国語の時間以外にも、グループやクラス全体での話し合い活動の充実を図り、テーマに沿った話し合い活動ができるよう指導していく。また、朝の会や学級活動などの時間を活用し、相手の話に真剣に耳を傾けられるような指導を心掛ける。
書くこと	市の正答率を3.9ポイント上回っている。特に、指定された長さで文章を書くことの問題は83.7%、2段落構成で文章を書くことの問題は82.6%と、市の正答率を大きく上回っている。	・国語の時間以外にも、ふり返りや手紙等の文章を書く機会を積極的に設ける。その際、事例を挙げて文章を書くことや段落構成を考えて文章を書くことを指導していく。
読むこと	市の正答率を4.2ポイント上回っている。特に、説明文の内容を読み取る問題では12ポイント以上上回っている問題がある。	・物語文では文章に即した読み取りを継続して指導していく。また説明文では段落構成を意識した読み取りや、事実と意見の関係をとらえた読み取りの指導を心掛ける。
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	市の正答率を4.3ポイント上回っている。特に5学年配当漢字の書きでは、それぞれ11.1ポイント、15.9ポイントと、市の正答率を大きく上回る問題があった。 熟語の構成や敬語の使い方については、すべての問題で市の正答率を大きく上回っている。	・文の構成や漢字、熟語等については、プリントやドリルなどを用いて、繰り返し復習させ、引き続き習熟を図る。また、読書を推奨し、普段から言葉に関心をもつことができるよう指導していく。

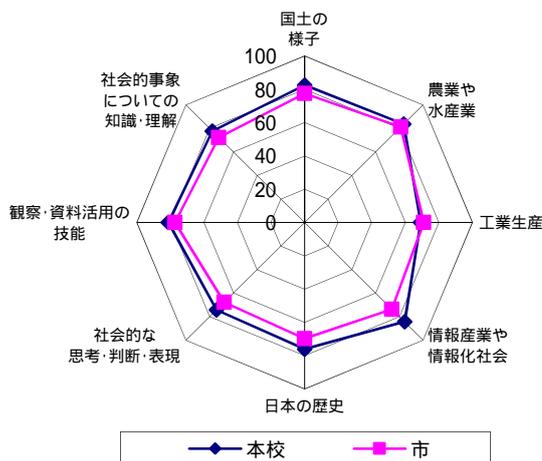
良好な状況が見られるもの 課題が見られるもの

# 宇都宮市立陽東小学校 第6学年【社会】領域別 / 観点別正答率

## 本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	国土の様子	82.6	77.5	74.0
	農業や水産業	83.7	81.1	73.7
	工業生産	69.2	71.1	73.5
	情報産業や情報化社会	84.3	73.7	63.2
	日本の歴史	76.0	69.7	73.5
観点別	社会的な思考・判断・表現	74.2	67.7	63.1
	観察・資料活用 of 技能	81.2	77.3	75.5
	社会的な事象についての知識・理解	77.7	72.2	73.1

参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



## 指導の工夫と改善

領域	本年度の状況	今後の指導の重点
国土の様子	市の平均を5.1ポイント上回っている。特に、「防災マップや会話文を参考に、自然災害がおきた際の自助の大切さについて考えて表現する」問題においては、82.6%と市の平均よりも10.4ポイント以上上回っている。	・今後も地図帳や資料集等を活用し、国内外の地理に触れる時間を設けたり、自主学習などで進められるようにしたりする。 また、身近な地域の防災にも目を向けて、意識を高められよう、広報誌やインターネットなどの情報を活用していく。
農業や水産業	市の平均を2.6ポイント上回っている。特に、「米の生産がさかんな地域について、資料を読み取る」問題においては、98.8%と市の平均を4.9ポイント上回っている。 「日本の食糧自給率について、資料を読み取る」問題においては、市の平均を4ポイント下回っている。	・身近な農業や水産業のニュースや新聞、インターネットなどの複数の情報を紹介するなどし、自分達が住んでいる日本について興味・関心を高められるようにしていく。
工業生産	市の平均を1.9ポイント下回っている。特に、「化学工業の製品について」の問題においては、62.8%と市の平均を5.1ポイント下回っている。 ○「工業地帯・工業地域の立地について、資料を読み取り考える」問題においては、市の平均を1.4ポイント上回っている。	・社会の授業において、身近な生活と工業製品が結びつくような話題を提示し、児童がイメージしやすい教材を用意したり、日常的に紹介するなどし、関心を高める。
情報産業や情報化社会	○市の平均を10.6ポイント上回っている。「身のまわりのメディア」、「医療における情報ネットワークの利便性について、資料を読み取り考える」の両問題において、81.4%、87.2%とどちらも市の平均を10ポイント以上上回っている。	・今後もパソコンやスマートフォン等の身近なものを例に、情報産業の役割や責任の大きさを情報モラルと関連させながら、実感を伴って考えさせるようにしていく。合わせて、情報化社会の急速な発展により情報管理等の危険性についても十分に指導していく。
日本の歴史		・今後も授業を通して、年表を掲示したり、図書資料・インターネットの情報などを活用し、高めていく。また、歴史上の人物の働きを紹介する新聞作りなども継続しながら、自ら進んで調べ、理解を深められるようにしていく。

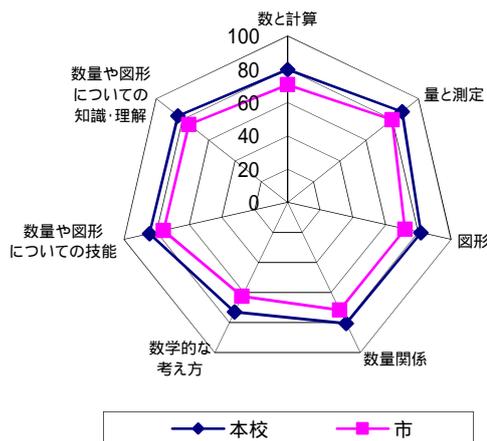
良好な状況が見られるもの 課題が見られるもの

# 宇都宮市立陽東小学校 第6学年【算数】領域別 / 観点別正答率

## 本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	数と計算	79.9	70.8	65.9
	量と測定	87.4	79.9	77.0
	図形	81.6	71.8	74.6
	数量関係	80.6	71.7	73.4
観点別	数学的な考え方	73.0	62.5	59.4
	数量や図形についての技能	84.3	75.8	73.3
	数量や図形についての知識・理解	83.5	75.1	76.3

参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



## 指導の工夫と改善

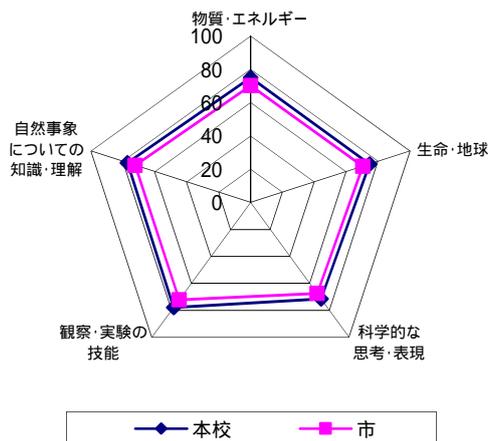
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	<p>どの問題も市の平均正答率を上回った。特に、問題の場面を理解し、式を表したり、示された条件と矛盾した点を説明したりする問題では、市の平均正答率を10ポイント以上上回った。 小数のかけ算と分数のわり算の正答率がやや悪かった。</p>	<p>良好な状況が見られるもの 課題が見られるもの</p> <p>・小数点の移動や約分など、基礎的な内容を復習する機会を設け、計算を早く正確にできるよう指導していく。そのためには、小数や分数の計算問題などについて、朝の学習や家庭学習の課題として繰り返し問題に取り組みさせるようにする。</p>
量と測定	<p>単位量あたりの大きさ・速さの内容では、市の平均正答率を上回った。特に時速を求める問題では、正答率が97.7%と高く、市の平均正答率を5ポイント以上上回った。 面積と体積の内容でも、全ての問題で市の平均正答率を5ポイント以上上回った。</p>	<p>・言葉や文章で説明する活動を充分に取り入れてきた成果であると考えられる。今後も引き続き指導を行っていく。 ・数と計算同様、学習した後の定着に向けて、繰り返し問題を解く機会を増やし、学力の向上に努める。</p>
図形	<p>どの問題も市の平均正答率を上回った。特に、内角の和や外角を求める問題では、市の平均正答率を5ポイント以上上回った。 展開図を組み立てたときに重なる頂点を見つける問題でも、市の平均正答率を上回った。空間図形の把握ができていていることが伺える。</p>	<p>・デジタル教科書の映像や実際の図形の模型によって、分かりやすく具体的な授業を展開することや、一人一人きめ細かに個別指導を行うなど、引き続き、図形の学習の充実を図りたい。</p>
数量関係	<p>グラフの読み取り、割合に関する説明の問題では、市の平均正答率を上回った。 比例と反比例の問題では、市の平均正答率を上回ったが、全国平均正答率を下回っている。</p>	<p>・まず、比例・反比例を利用する場面を設けたり、式に表し活用する便利さを味わわせたりして関心を高めるようにする。それを行った上で、比例・反比例の表の読み取りから、決まった数の出し方や式への表し方などについて、問題を繰り返し行い、技能の向上を図りたい。</p>

# 宇都宮市立陽東小学校 第6学年【理科】領域別／観点別正答率

## 本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	物質・エネルギー	75.0	70.3	69.0
	生命・地球	74.7	70.4	70.2
観点別	科学的な思考・表現	71.4	67.5	66.4
	観察・実験の技能	77.9	72.3	68.9
	自然事象についての知識・理解	77.1	72.3	71.5

参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



## 指導の工夫と改善

領域	本年度の状況	今後の指導の重点
物質・エネルギー	<p>植物の発芽と成長の内容では、市の平均正答率を10ポイント以上上回るものもあり、よく理解できていた。</p> <p>一方で、植物のつくりとはたらきの内容では、植物の水の通り道に関する問題で、市の平均正答率を4ポイント下回った。</p>	<p>良好な状況が見られるもの 課題が見られるもの</p> <p>・植物の観察や対照実験などを充実させる必要がある。</p> <p>・子どもたちの疑問や希望する実験方法を重視し、興味関心をもって実験を行うことで、基礎的な原理や法則が正しく理解できるようにする。</p>
生命・地球	<p>もののとけ方、ものの燃え方の内容は比較的正答率が高かった。</p> <p>水よう液の性質の内容では、リトマス紙の色の変化や実験結果のにおいから水溶液が何であるかを推測する問題で、全国平均正答率と同等、あるいは市の平均正答率を下回った。</p>	<p>・実験を行うだけでなく、予想・仮説・実験・結果・考察における言語活動を意識しながら、まとめ方や考察を工夫する。実験後は、プリントなどで既習内容を復習し、基礎的・基本的な内容の更なる定着を確実に図ってきたい。</p>

# 宇都宮市立陽東小学校 学力向上に向けた学校全体での取組

## 学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
自ら課題をもち、主体的に表現できる児童の育成(全教科共通)	<ul style="list-style-type: none"> <li>単元のはじめや、一単位時間のはじめに、何を学ぶかについて知らせ、見通しをもって授業に臨めるようにする。</li> <li>児童が活動したくなるような仕掛けを授業に取り入れる。</li> <li>対話的な学習の場を設け、多様な意見や考えに触れ、自分の活動が広げられるようにする。</li> <li>学んできた過程を客観的に振り返る場面を設け、何ができるようになったか、今後の課題は何かについて考えられるようにする</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>学習と生活についてのアンケート「学習に対して自分から進んで取り組んでいる」という質問に対する肯定割合は83.7%で、市の割合とほぼ同じである。また「勉強が好きか。」に対する肯定割合は76.7%で市の平均を9ポイント上回っている。</li> <li>「グループなどの話し合いに自分から進んで参加しているか」の質問に対する肯定割合が82.6%で市の平均を2ポイント上回っている。</li> </ul>
読むことを通して、自分の思いや考えを深めるための授業展開(国語科)	<ul style="list-style-type: none"> <li>教材文に対する意見や考えを、ノートやワークシートに記入し、自信をもって友達と意見交換したり、発表したりできるようにする。</li> <li>教材文を読んで、せりふを書き入れたり、友達と読み合ったりする。</li> <li>教材文に対する意見や感想を友達のと交換して読み合い、違いに気付いたり、共感したりできる場面をもつ。</li> <li>朝の学習において、優れた文章を音読し、視写する活動を取り入れる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>「根拠をあげながら話すことができる」に対する肯定割合は75.6%で市の平均を6ポイント上回っている。</li> <li>「物事をいろいろな視点や立場から考えている」に対する肯定割合は86.0%で市の平均を5ポイント上回っている。</li> </ul>

## 国・県・市の結果を踏まえての次年度の方向性

- 学習内容についての理解は全般的によくできている。特に挙げるとすれば、知識理解面の習得になる。プリントなどで既習内容を復習し、基礎的・基本的な内容の更なる定着を確実に図っていきたい。
- 学ぶことに興味や関心をもち、見通しをもって課題に取り組み、自己の学習活動を振り返って次につなげる「主体的な学び」ができるような手立てについて研究していきたい。
- また、国語科において「読むこと」を通して自分の思いや考えをどのように深めていったらよいかについて研究していきたい。